

—谷口政隆教授のご退職を迎えて—

社会福祉学科 学科長 幸 津 國 生

谷口政隆教授が本年三月末をもって本学社会福祉学科を退職されることになりました。

人間社会学部創設以来満十三年間のご在職中、本学科において学科長を二回も務められ、学科の中軸としての役割を果たしていただきました。学部においても学生学寮委員長など激務を担当してくださいました。学科内外での職務のご苦勞に対して心よりお礼申し上げます。学生からは学科での〈お父さん〉のように慕われる存在であり続けてこられました。また学科の教員も何かにつけ本当にたよりにしてまいりました。とても気さくなお人柄で中央研究室などでの歓談のときにもいつも明るい笑いの輪の中心におられました（お酒談義やお宅の蛙の写真とそのお話は楽しい思い出です）。ご退職によって本学科におられなくなるというのは、何か現実感が湧いてまいりません。それほどお世話になってきており、私たちがそれに甘えているということなのでしょう。しかし、もはやそのような甘えは許されず、まことに残念なことです。ご退職を現実のこととして受け容れなければなりません。その上で、私たちがなすべきことは、教えていただいたことをしっかり受け継いでいくことです。

ご研究の専門領域は、コミュニティワーク・障害者福祉ということになるかと思います。

国内やイギリスなど外国のソーシャルワーク一般についての理論研究のみならず、地域福祉に関わる実践的な研究を進められ、またいくつかの障害者の社会福祉調査など今後のコミュニティ形成の基礎となる多様なご業績を残してこられました。研究上の議論で多くを与えてくださいました。教育面では学部でのソーシャルワーク総論など本学科の学科目の中でも中心となる科目を担当していただきました。また学部・大学院の谷口ゼミは毎年多くの受講生を抱えた人気ゼミであり、そこから多くの卒業生・修了者が育ち国の内外のいろいろな場所で活躍しております。まさに学問という点でも人を育てるという点でも本学科の活動を支えてきてくださいました。この方向を、さらに自治体等の各種の委員会委員や協議会理事などの社会的活動で広げておられます。そこで培われた繋がりによって学科としても直接間接に大きな恩恵を被ることができました。

残される私たちには不安もありますが、同じ県内に新しい職場を得られるとのことなので、ちょっと安心もしております。またまたお手数をおかけしてお力添えをいただくことがあるかもしれません。その折りにはよろしく願い申し上げます。こちらの勝手ばかり述べて申し訳ございません。末筆ながら、永年のご苦勞に感謝いたしますとともにさらなるご活躍のためにご健康をお祈りいたします。（とてもお好きなワインで乾杯！）